



■発行年月日/2016年10月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 増田政久 ■編集者/副院長 杉浦信之
〒260-8606 千葉市中央区椿森4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 http://www.hosp.go.jp/~chiba/

理念

信頼される医療を築く

Building Trust

私たちは、地域の方々に親しまれ、信頼される医療を目指します。

基本方針

- ・患者さんをはじめ、センターに関わるすべての方々の人権を尊重し、相互信頼で成り立つ安全・安心な医療を目指します。
- ・地域の医療機関に信頼されるエビデンスに基づいた幅広くかつ専門性の高い急性期医療の構築を目指します。
- ・良質かつ最新の医療を提供するために教育・研究・研修・情報発信を推進し自己研鑽に努めます。以上の方針を継続的に実現する病院運営に努めます。



「佐倉ふるさと広場」

4月のチューリップ、7月にはひまわり、そして10月はコスモスと、四季折々の花が楽しめます。

撮影：板倉史枝（治験管理室）



病院の取り組み

院長 増田 政久

いくつかの台風の影響で、被害に遭われた方も少なからずいらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げます。

ところで今、1階・2階部分の改修工事を行っています。医療の提供体制が時代とともに変わらざるを得ないなか、増加が予想される通院治療の患者さんへの対応や入院患者さんへのきめの細かい相談サービスなどを従来とは違った

体制で対応可能にすることを目的にしています。

11月末に工事終了予定ですが、いずれ患者さんに今までの違いを実感して頂けることを楽しみにしています。

さらに病院の活動状況を第三者に中立・公平に評価してもらい、課題を抽出しさらに改善に取り組むことで医療の質の向上を図ろうと病院機能評価を来年3月に受審することにしました。他者から一定の水準を満たしている急性期病院であると認められるよう、病院一丸となって取り組んでいこうと考えています。よろしくお願ひ申し上げます。

Yuhanon (四六)

武者廣隆名誉院長叙勲受章・韓国「健康保険審査評価院」来院	2
知事表彰受賞・外来改修工事・地域医療連携室だより	3
連携病院紹介/肝臓病教室を開催して	4
診療トピックス 大腸癌について	5
ANECOTA ―隠れた史実―	6~7
学会特別賞受賞	7
がん患者サロンだより	8
千葉看護学校だより	9~10
市民健康セミナー/専門外来・検査担当医師表/編集後記	11
外来担当医師表	12

主な行事予定

10/15	市民健康づくり大会
10/18	看護学校戴帽式
10/27	第160回市民健康セミナー
11/15	看護学校推薦・社会人入学試験
11/24	第161回市民健康セミナー
12/22	第162回市民健康セミナー

武者廣隆名誉院長叙勲受章

平成28年春の叙勲において、名誉院長武者廣隆先生が瑞宝中級章を受章されました。

平成28年5月18日に厚生労働省において勲章伝達式が行われ賞状と勲章が授与され、その後皇居の宮殿「豊明殿」において配偶者同伴で天皇陛下に拝謁されました。



武者先生は、昭和40年3月千葉大学医学部を卒業後、同大学附属病院にてインターン、昭和45年3月大学院を修了し学位を取得、千葉大学医学部第一内科に入局され肝臓疾患を中心に研究を積まれました。

昭和56年9月に国立千葉病院（千葉医療センター）内科医師として奉職され、平成2年から副院長、平成9年に院長に就任以来平成15年まで20年以上の永きに亘り千葉医療センターの充実強化、運営の健全化に寄与されました。

また、平成13年に地域医療研修センターを開設以来、各種講演会、研修会等を開催し、14年からは千葉市の後



援を得て地域住民を対象とした「市民健康セミナー」（月1回：現在も続いており9月で159回となる。）を開催するなど地域住民から多大な支持を受けています。

さらに、千葉県医師会の学術担当理事として活躍され、千葉医療センターの発展のみならず、千葉県の医療の発展に尽くされました。

永年のご功績に敬意を表し、心からお祝い申し上げると共に千葉医療センターにとっても大変名誉なことで共に慶びとするとところであります。（管理課）

大韓民国（韓国）「健康保険審査評価院」の4名来院

平成28年9月6日（火）14：00～16：00にお隣の国、韓国の健康保険審査評価院医療資源室の職員4名（別表1）と通訳1名が来院し、病院見学及び増田院長、杉浦副院長等との意見交換が行われた。今回の日本訪問の目的は、9月5日（月）～8日（木）の日程で厚生労働省及び日本の先進医療施設の現況及び医療現場の方々との交流を行うとのこと。当センター訪問の目的は、「医療施設での医療資源（医療スタッフ、施設、医療機器）の運営状況及び管理基準などに関する日本の先進経験のご拝見及びご拝聴」という内容であった。

ホームページ等の情報では、韓国の医療制度の特徴は、日本と同じ医療皆保険制度を取り入れていることと急速に高齢化が進む中で国民医療費が増大しているところ。また、民間病院による医療サービスの提供が主となっており、公的病院が少ないところが類似している。一方、診療報酬請求のオンライン化や電子カルテ化といったIT化が浸透しているほか、医薬分業が徹底している。日本と異なる部分としては、朝鮮半島に伝わる伝統医学の韓方医薬が導入されていること。今回来日の「健康保険審査評価院」は、医療機関等が提供した医療サービスの内容や費用の審査と医療機関等の適正な診療を促し、国民に良質な医療サービス

別表1 韓国健康保険審査評価院訪日団体名簿

No.	氏名	ローマ字	所属機関	役職
1	パク、ヨンジャ	Park, Yeong Ja	韓国健康保険審査評価院 医療資源室 資源管理部	部長
2	リ、スッキョン	Lee, Sook Gyung		次長
3	ソング、ミソン	Song, Mi Sun	韓国健康保険審査評価院 医療資源室 資源運営部	次長
4	ジョン、ジェオク	Jeong, Jae ok		課長

を提供させることにある。この審査結果により医療機関等への療養給付費用の支払いは、「国民健康保健公団」という別の機関が行っている。

当日の意見交換では、病床機能報告制度や専門医制度の話題や高額医療機器（CT、MRI等）の使用年数による保険点数の違いはあるのかといった質問があった。病院見学では、対応する看護師が皆笑顔で迎えてくれたことに感謝したとの感想を残し、次の訪問先に向かった。



（事務部長 三井光義）

千葉県看護功労者知事表彰を受賞いたしました

6東病棟看護師長 鈴木 節子

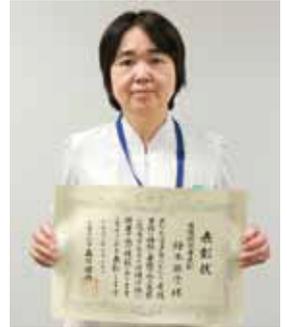
平成28年7月14日(木)、千葉県看護功労者知事表彰をいただきました。お話をいただいたとき、「え、こんな私がいただいて良いのかしら?」と恐縮する気持ちと、とてもありがたいうれしい気持ちがこみあげてきました。

振り返れば、国立千葉病院附属看護学校(現千葉医療センター附属千葉看護学校)を卒業し、38年間、あこがれであった看護師という仕事を、続けて来れましたのは、上司のご指導、ご支援をいただいたことはもちろんのこと、各職場で出会った先生方や多くの先輩、同僚、後輩、病院の皆様、そして好きな仕事を、子育てをしながらでも続けられるようにと、いつも支えてくれた家族の温かく力強い支

援があったからこそと心から感謝しております。

また何よりも忘れてはならないのは、患者さんから頂いた感謝の言葉や、励ましの言葉です。患者さんとの関わりの中で多くのことを学ばせて頂くと同時に元気もいただきました。患者さんの病気と向き合う姿勢に、私自身も前向きになれ、看護師としてのやりがいにつながりました。

これまで支えていただいた多くの方々へ心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。



外来の改修工事について

～患者サポートセンター等(1階)、通院治療室等(2階)～

千葉医療センターは、平成22年6月に新病院(病棟中央診療棟8階建、外来管理棟3階建等)として診療を開始し約6年間が経過しました。今回は、1階及び2階の外来部分を改修いたします。1階は、患者サポートセンターとして入院・検査・手術等事前説明を行う相談室の増設、がん相談支援体制と地域医療連携室業務の充実を目的とした模様替を行い、当センターを利用される患者さん・ご家族の皆様へ適時に適切な支援をお届けしたいと考えています。

2階は、現在の通院治療エリアの改修により、新たに中央処置室を設け、さらに安全で質の高い外来化学療法を提供する通院治療室が誕生いたします。

また、定期的に身体チェックを受けられる人間ドックのエリア前には、乳腺センター(乳腺外科)の外来診察室を新設いたします。これらの改修により当センターは、地域がん診療連携拠点病院としてさらなる質の向上を目指していきたいと考えております。

改修工事は、11月末の完成に向け通常の外来診療と並行して進めております。この間ご利用いただく患者さん・ご家族の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。(企画課 業務班長 坂野和彦)



現在の通院治療室エリア

地域医療連携室だより

地域医療連携室は平成16年(2004年)に、FAX診療予約を主な業務として立ち上げました。当初、主な業務は受診予約などの前方連携や紹介状の管理等であり、事務スタッフが担っていました。のちに医療・介護・保健福祉相談、退院支援や地域との連絡調整部門としてソーシャルワーカーが配置され、次いで退院調整看護師が配置され現在に至ります。現在のスタッフは写真のとおり、事務スタッフ7名、退院調整看護師3名、ソーシャルワーカー6名です。

平成20年2月にがん診療連携拠点病院の指定を受けてからは、「がん相談センター」が設置され、看護師、ソーシャルワーカーが面談や電話で応談しています。

スタッフが充実してきたことで業務も広がってきましたが、同時に院内外の連携の難しさも感じています。患者さんが安心して受診・受療・療養生活できるためには院内連携と院外連携とがスムーズに行き交う必要があるからです。「連携」は、文字通り地域医療連携室が窓口として期待



されています。12年経過してもまだ、期待に応えきれないところですが、地域貢献できる連携室であるよう、スタッフ一同、力を合わせて行きたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

(ソーシャルワーカー 新井尚美)

連携医院紹介

医療法人社団 AZMEDICAL 小中台クリニック

千葉市稲毛区小中台町 1341-1 中村ビル 2F

☎ 043-255-2781

院長 池田 雄次

当院の特徴

当院は、内科を中心に総合診療をしている診療所です。もともと私は呼吸器内科医でした。専門領域の疾患としてはCOPD、気管支喘息、肺炎などがありますが、今は町医者となり「大人から子どもまで、頭から足先まで、なんでも診る」というスタンスで診療をしております。

多くの場合は当院で診療が可能なのですが、その疾患への対応が当院では難しいと判断した場合は最もふさわしい病院に紹介しております。

千葉医療センターとの関わり

私が研修医の時に国立千葉病院（国立千葉医療センター



の前身)で麻酔科の研修を受けたことがあります。たった半年でしたが、貴重な時間を過ごすことが出来ました。たいへん感謝しております。

今回、千葉医療センターとの医療連携ネットワークを導入させていただきました。診療の情報を共有出来るシステムです。患者さんにとっても患者さんを紹介した医療機関にとっても非常に有用なシステムだと思います。

昔もお世話になったのですが、これからもお世話になると思います。よろしく願いいたします。

肝臓病教室を開催して

「第6回 肝臓病教室」に参加して

臨床検査科 宮澤 智孝

平成28年7月15日(金)、千葉医療センターの地域医療研修センターにて第6回「肝臓病教室」が開催されました。

当日は、雨が降る生憎のお天気でしたが、10名近くのご参加を頂きました。

今回の肝臓病教室では、臨床検査技師の立場から、肝臓病疾患の検査について講演させていただきました。

我々検査技師は「ALT」や「AST」など当たり前に使っていますが、患者さんの立場に立った時、伝わりにく

いのではないかと考え、分かりやすい言葉を使いながら検査を身近に感じて頂けるよう心がけ

ました。今回講演をさせていただいて、人にものを伝える難しさを実感し、大変勉強になりました。

検査を含め、医療は日々進歩を続けています。今後も、このような教室はより有効な情報発信、意見交換の場となると思います。一度は足を運んでみては如何でしょうか。



肝臓病教室について

薬剤部 大塚 恵子

近年、C型肝炎の新薬が続々と発売されました。その進歩により、慢性化し肝がんへ進行してしまうのが一般的であったC型肝炎も、現在は治る病気となりました。

今回は市民向けの教室ということで、肝臓病の疫学を始め、肝庇護薬、B型・C型肝炎の抗ウイルス薬という薬の知識や、薬剤耐性、相互作用といった薬剤服用に重要なエッセンス、さらに医療費助成制度、ボツルの開け方

や飲み忘れ防止など薬を使う上でより患者さんに近い目線のお話しをしました。新薬により奏効率が100%近くになりましたが、その反面、相互作用などが関与した死亡例が報告されていることも確かです。この肝臓病教室で患者さんにお薬を正しく使っていただくための知識を微力ながらお伝えすることができたと思っております。

昨今、社会において様々な情報がうごめいています。このような医療者主催の教室は今後重要性を増してくると思っておりますので、ぜひ次回は多くの参加者を期待したいと思っております。

大腸癌について

我が国でも大腸癌は年々増加しています。大腸癌の治療法には内視鏡治療、手術、抗癌剤治療、放射線治療などがあります。これらの治療法の選択や組み合わせは、診断時の病期（ステージ）によって異なり、一般の方には分かり難いかもしれません。地域がん診療連携拠点病院である当院の大腸癌の治療、特に今回は手術について解説致します。

現在、我が国の大腸癌治療は概ね『大腸癌治療ガイドライン』に則って行われています。手術困難な場合も含めて、ガイドラインには治療の原則が定められており、病期にしたがって標準的な治療法が選ばれます。

大腸癌手術治療の原則は癌を残さずに取り除くことにあります。理由は、現在のところ抗癌剤や放射線だけでは根治させることがほぼ困難だからです。癌が内視鏡的治療が困難な大腸の壁のやや深いところ（粘膜下層の深いところや、固有筋層以深）に侵入するとリンパ節転移も見られるようになります。そこで、原発巣（大腸に発生したおおもとの癌）を含めて大腸の一部を切除するとともに大腸周囲のリンパ節を取り除きます（腸管切除＋リンパ節郭清）。さらに、腸と腸をつなぎ直します（吻合）。

一口に大腸と言っても肛門から15cm位奥までを直腸、その他を結腸と呼びます。直腸の場合は肛門に近いため、吻合のトラブルや術後の排便機能の低下という問題が生じ得ます。癌が肛門に及んでいる場合には肛門を切除せざるを得ず、永久人工肛門となります。また、肛門を何とか残せた（肛門温存）としても失禁や頻便など何らかの排便機能障害が残ってしまうこともあります。肛門温存手術には切除や吻合のための技術や癌治療の妥当性などを判断する知識が必要です。直腸の治療経験のある専門医にご相談されると良いと思います。

さて、大腸癌手術も従来の開腹手術だけでなく、最近では体への負担を減らす腹腔鏡下手術の割合も増えています。腹腔鏡下大腸手術は、我が国では1992年から行われるようになり、当院でも2007年より導入しています。キズが小さく、痛みが少なく、腸の運動や体の回復が早いなどの利点がある一方、手術時間が長く、コストがかさみ、適応が限られるなどの欠点もあります。



写真1



写真2

開腹手術だと15cm程度のきずとなりますが、腹腔鏡手術だと5mmから10mm程度のきずが3、4カ所と5cm程度のきずが1カ所となります（写真1）。また、早期癌など条件が整えば単孔式手術といって、5cm程度のきずが1カ所で済むこともあります（写真2）。腹腔鏡手術だと実際に術後の患者さんが楽そうにしているのは大変印象的です。

外科医の立場から良い点としては、腹腔鏡による拡大視効果により精緻な手術でき、モニターで術野が見えることから皆で術野の共有し、共通の理解ができ術者の誤認が防げたり、後進の教育にも役立つことなどが挙げられます。しかし一方、カメラの視野制限の存在や手術の特性による動作制限があり、術者には高い技術と知識が求められるばかりでなく、手術チーム全体の習熟が必要となります。最近の研究では、かなり進んだ癌の場合は施設や術者の技量の差が術後経過に影響を及ぼす可能性が示唆されています。

日本内視鏡外科学会では技術認定医制度を設けており、認定を受けるためには試験に合格する必要があります。過去の経験症例数や学会業績だけでなく、未編集の手術ビデオを提出しその内容を審査されます（もちろん患者さんには許可を得ています）。合格率が軒並み20～30%台と厳しいものです。当科には技術認定取得者が2名在籍しております（里見大介、山本海介医師）。

当院においても高度な手術の場合には、術者やチームなどとして技術認定取得者が関わり、手術の質や安全性を保つようにしております。是非ご相談下さい。

（外科医長 里見大介）

A N E C D O T A (46)

— 隠れた史実 —

元研究検査科長 高澤 博

ウィリスが北越・会津から江戸に戻り(明治1年11月15日(1868.12.28))、12月13日ウィリスを一年間貸与してもらいたいという要請が新政府から英公使パークスのもとに届けられた。東京に西洋方式の医学校と病院を設立するにあたって、その指導者にウィリスを招きたいということであった。外国官副知事(副外交官)東久世通禧^{みちとみ}の要請状の裏には、同11月28日藤堂屋敷でのシッドール、サトー、ウィリスらの会合があり、病院創設の件で向こう一年間ウィリスに援助を依頼するよう、日本側を説得する方法を協議した。その結果シッドールを公使館にもどす必要があること、そして、ウィリスへの要請状を東久世が出すべきことを石神に伝えた。その結果、ウィリスは一年間の賜暇を申請し日本側から給料を支給された(萩原「遠い崖」7-288)。

以上の経緯で東京に東京大学医学部の前身たる西洋方式の医学校と病院が誕生する礎ができました。その複雑な経緯は後日に予定し、ここで多少飛躍して、明治3~6年に、その発展途上にあった大学東校に入学し、その後、千葉大医学部の前身たる共立病院―県立千葉病院の校長を務めた二階堂謙(以下謙)(図1)について記述しておきます。

謙の略歴を記しますと(図2)、嘉永3年4月17日(1850.5.28)父潜庵(医師)と妻春子との間に長子として旧伊達郡桑折町57番地に生まれました。少時は専蔵を名乗りました。二歳違いの次子順庵がおり(図3)、少時、兄弟二人



図1 二階堂謙
横浜、浅草の内田九一撮影の裏書あり。



図3 父親潜庵(中央)兼(左)順庵(右)。陸軍軍医輔(明治8年頃)の順庵。内田九一撮影。

で仙台に赴き河野・岡氏に師事し漢学を学びました。その後、明治2年9月より同3年5月まで米沢藩侍医高橋玄勝に従い漢学と洋方内・外科修行、同3年6月より10月まで同藩医吉田玄碩について漢学・洋方外科外科学を修行した。明治3年閏10月(1870.11~12, 21才)東京に出て大学東校に入学し同6年4月まで内科・外科を修行した。臨時教師マッセ、シモンズ、御雇教師ミューラー及びホフマン

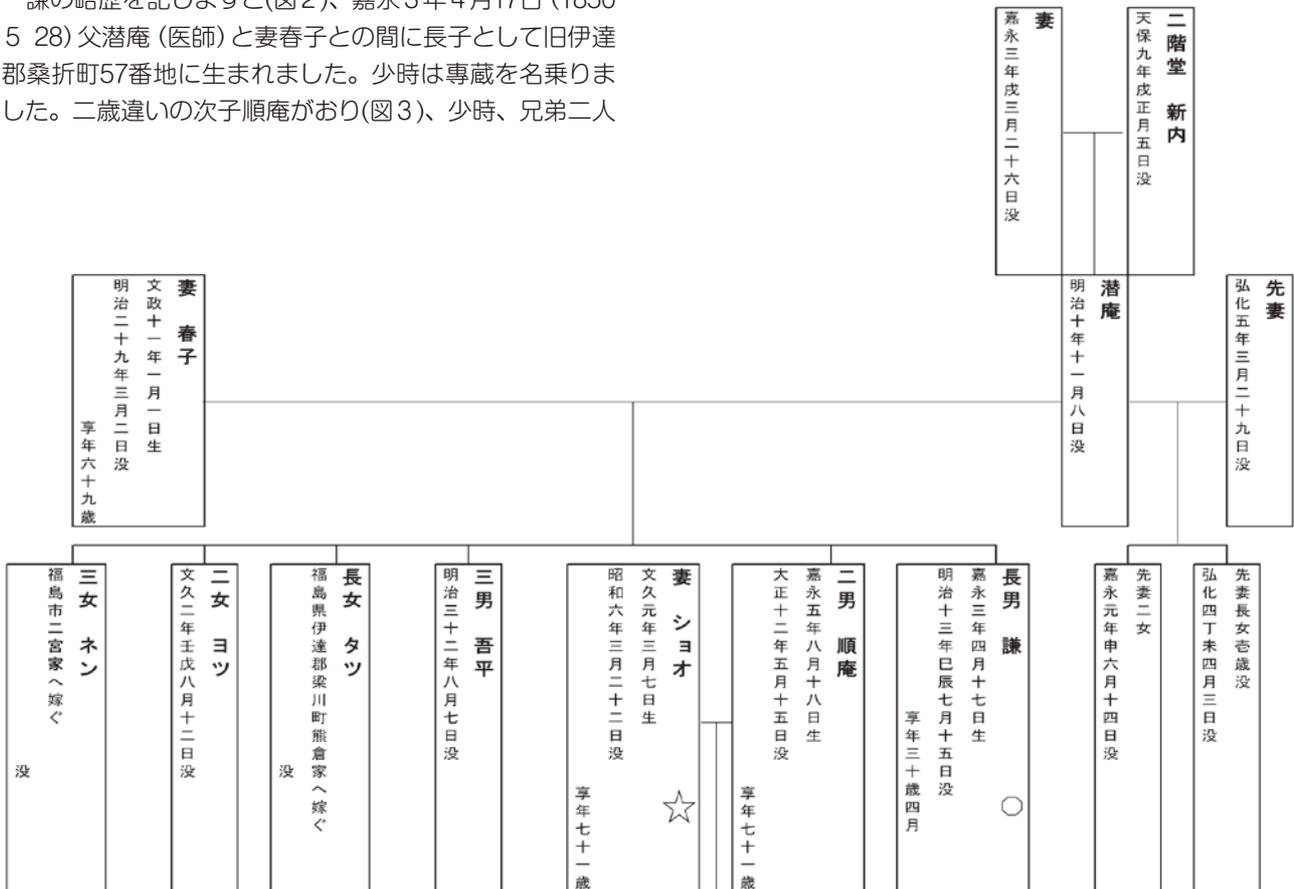


図2 二階堂家系図。兼、順庵の名がみえる。資料は順庵系統の末裔二階堂みち氏による。

等にもついて学んだという。同6年2月より9月まで三等侍医岩佐純に雇われ、当家の塾生を教授した。

明治6年9月29日 千葉県権中属に任じ同7年7月22日千葉本町に有志拠出金をもって設立された千葉共立病院院長を兼務した。同年8月17日千葉県中属に任じられた。明治9年2月25日第一課衛生掛兼勤を拜命された。同9年10月25日県立千葉病院院長を申し付けられた。明治10年11月8日潜庵没し、同11月10日依願解約、同年11月11日松戸病院院長を申し付けられる。同12月医術内外科開業免許状を取得(第398号)。明治12年3月依願解職する。同年6月帰郷し医家を継ぐ。明治13年6月胃瘍を患い、同年7月15日没し香林寺(現桑折寺)に葬られる。享年30才4か月。

兼は蒲生氏女を娶り(明治8年6月?)、一男を授かるが夭折した。夫人は18才で嫁したが体調優れず、籍をはすされている。

謙が千葉共立病院院長に赴任した裏には、**佐藤尚中(以下尚中)**の推挙があったと云われていますが、その証拠となる記録は見つかっていません。

ここでは尚中の大学東校赴任から退官までのいわゆる医学校の推移をみながら、兼の医学校での環境を追ってみます。その前に、いわゆる医学校は頻りに名前を改称しますので、ここで整理しておきます。

明治2年2月：**医学校兼病院**、医学所と大病院の合併、旧藤堂屋敷

同 2年6月15日：昌平学校を大学校と改め、その分校に開成学校と**医学校兼病院**が入る。

同 2年12月17日：大学校を大学、その下に大学南校と**大学東校**を置く。

同 4年7月21日：南校と**東校**を文部省の傘下に置く。

同 5年8月3日：8大学区制を公布、東校は**第一大学区医学校**、南校は第一大学区一番中学と改称、明治6年専門学校に昇格し開成学校となる。

同 7年5月7日：第一大学区医学校を**東京医学校**と改

称。開成学校を東京開成学校とする。

同10年4月12日：東京医学校と東京開成学校を合併し、**東京大学**となる。

尚中(舜海)は明治2年12月5日「拜命 任大学大博士、佐藤舜海(44才)右宣下候事 12月太政官」とあり、大学校に招かれた。官途から退く時期は明治5年9月頃から辞令の上で現れ始め明治6年春にはすっかり辞めたと思われる。「議合わざることあり、病を以て官を辞し、位記を返上」(谷中碑文)。

医学校の最初の規則は「**学則**」にまとめられ、明治2年6月頃と考えられる。これは部内規則の性格を有し(公文書には現れない)、ウィリスの関与、あるいはボードウインの助言が参考になったと推測される。予業生(予科)：2年間、本業生(本科)：3年間、合計5年の在学を要した。明治2年11月**医学校規則**(全11条)が制定され、概括的規程を集めたもので、最初の規則と目され、明治4年まで実施された。入学日：毎月27日に限り、晩学の生徒は予科の小学校の学科をやる余裕がなくば、直ちに大学校の学科を修め病院にて臨床治験を積むことを許した。兼は本科に入学を許されたと推測します。明治4年**大学東校規則の改正**があり、医学の学問内容に触れ大学東校の医学の専門教育機関としての自負がみられる。入学：毎月五日、小学普通の学科を終えて17、18才に至った者。既に他所で学んでいる者は試験をして相当の学科等級を定める。

正則生；洋書(英語か)を用いて五年間在学する者。変則生；厳密に学科の順序を踏むに暇がなく、要領を得て卒業に至る者。訳書をもって三年間修行する者。「晩学にして期年の間留学(在学)する事能はざる者は学科順序に拘わらず直ちに病床傍観を許し親しく研究可致事」という特例も認められた。正則・変則両者には予科二年が置かれた。この段階で兼が正・変何れの生徒かは、判断する資料がありません。ただ、ウェブスターの大辞典を所持し、ドイツ語による有機化学のノートが見つかっています。正則生の可能性は否定できませんが結構聴講は出来たようだ。続く。

学会特別賞を受賞して

臨床検査科 生理検査室 **大坪民子**

平成28年9月に開催された第44回国臨協関信支部学会において『当院検査科生理検査室による院内超音波機器管理と運用』を発表し、チーム医療という観点や病院機能推進への貢献を選考理由に学会特別賞を頂きました。

本発表は、2013年の超音波機器管理委員会発足を機に、検査科生理検査室で取り組んだ院内超音波機器の一元管理と運用について報告したものです。これまでメンテナンスや修理依頼手順等が不明瞭であった外来・病棟・手術室に点在する院内の超音波機器全てを検査科が把握し、動作不良時やインシデント発生時の対応、定期メンテナンス等を実施し、機器の共有化や譲渡等の有効利用を図りました。また、超音波検査室の運用変更についても超音波機器委員会に積極的に提案し、実施件数の

大幅な増加を実現しました。その一方、各診療科による新規機器購入時の要望調整や介入については、試行錯誤の段階であり今後の課題です。

生理検査室による院内超音波機器の一元管理は、ICTやNSTと同様に他職種と連携して病院運営に寄与できる業務だと実感しております。今後とも院内超音波機器の更なる有効利用に向けての情報発信をしていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。



がん患者サロンだより

千葉医療センター がん患者サロンの始まり

平成18(2006)年に制定された「がん対策基本法」に従って、当千葉医療センターは平成20(2008)年2月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定をうけました。

そして、病院事務の方などのご尽力により、第1回「がん患者サロン」は平成21(2009)年10月に旧病院の栄養相談室を会場に開催しました。第2回目を12月に開催して以来、新病院への移転月(平成22(2010)年5月)を除いて毎月開催しています。

患者サロンでのお話から 後遺症・副作用など

サロンでの話題は多岐にわたりますが、治療に伴う後遺症・副作用のことなども多く話されます。

手術については、部位や範囲の大きさなどにより異なりますが、なかには、「傷口がなかなか塞がらなかった」や、「1年半前の手術後のお腹の中が、今も痒い? 感じがしている」、「(甲状腺)手術後、首が絞められる感じだった」など。

胃や消化器系系の手術をされた方の中には、「食べたいけど食べられない。無理に食べると戻す」ほか、「ガスが出易くなった」や、「便秘気味とゲリぎみとが交互に・・・」、「いつも(便が)残っている感じが・・・」など、食事や排泄に関する悩みも多く語られます。

乳がんの手術をされた方では、「手術後リンパ浮腫で、腕がむくみ違和感があって困った。自分でマッサージの治療先を探した」との方。また、「重い物は持たない様にしている」、「蚊

に刺されない様に」、「手を切らない様に」など、工夫が必要な様です。

そして「痛み、苦しみは誰にも分からない。家族にも、先生にも、看護師さんにも」との方も。

中には、「手術後は体が痛かった。半年位たって痛みも落ち着いて少なくなってきた、こんなもんかなといった感じだ」との方。「体を切ったのだから慣れて行かないと」、「それが自分の身体だと思って・・・」と、諦観の心境の方々も。

がん患者サロンでは、色々のことが話されます。その中から何かヒントが得られるかも知れません。

世話人一同(がん体験者)、ご参加をお待ちしております。

(宗水)

がん患者サロン プロヴォックス患者交流会開催案内

日時：毎月第4金曜日 13:30～16:00

2016年 10月28日(金) 11月25日(金)
12月16日(金) *12月は第3金曜です

2017年 1月27日(金) 2月24日(金)

場所：千葉医療センター内会議室

(当日、道順案内を掲示します)

対象：主としてがん体験者及び、そのご家族です。

どちらの医療機関にかかっておられても参加できます。(予約不要、参加費は無料です)

問い合わせ：TEL 043-251-5311(代表)

(経営企画室 久米)

本投稿は当院外来診療棟2階廊下に展示している絵画で、当該作者の方から無償で借用しています。作品が生み出された情景を伺いました。

絵画「涼風」への想い

稲毛区 佐々 初子

70歳を過ぎてから、千葉市の高齢者講座で水墨画を始めました。それから10年余り、風景、人物、静物等々、絵を描くことを楽しんできました。

4年前の秋、突然の血痰に驚き受診しましたら、肺がんであることがわかり、大変ショックを受けました。好きな絵を描く気力もなくなってしまい、つらい日々でした。

入院中に「患者サロン」を知りました。

わだかまっている不安を率直に話し、皆さんに聞いてもらううちに少しずつ平常心をとりもどしました。食欲も出、体重も増えてきました。

不思議なことに絵も描きたくなり、9月から水墨画クラブに復帰しました。

「涼風」は復帰第1号の作品です。久々にパレットをひろ



げ、さわやかな気分でモチーフに向きあいました。テーブル上の野菜は新鮮で本当に美しく見えました。それは充実した時間でした。

今も絵は続けています。

61期生 里帰り企画

教員 小宮美絵

平成27年度に卒業した61期生の「里帰り企画」が平成28年6月24日、開催されました。今年度は例年よりも人数が増え、卒業生82名のうち69名の参加がありました。その背景には、就職先ご施設の皆様のご理解とご協力のお陰と、心より深謝致します。

会は、学校長・副学校長の挨拶にはじまりました。卒業生からの一言メッセージでは、3か月ぶりの仲間との再会を喜ぶ声や、現在の仕事に対する意欲や悩み、これからの希望などを話してくれました。

テーブル毎の歓談では、看護師になって経験した看護技術や患者さんとの関わりといった情報交換に加え、今後の人生設計や目指す看護師像、自分自身が感じている課題など多岐にわたりました。現状に悩みながらも前に進もうとする様子は、卒業から3か月の成長を感じられました。



終了後のアンケートには、「同級生が同じ悩みや不安をもちながらも頑張っていることを知り、明日からの励みになった」という意見が多く聞かれました。また、就職してから学生生活を振り返ってみて思うことにも触れており、そのような卒業生たちの思いは今後の千葉医療センター附属千葉看護学校にとって貴重な意見となりました。まだまだ未熟な看護師ではありますが、それぞれの目標に向かい一歩、一歩、歩み続けられるよう、今後も見守り支援していきたいと思えます。

「あなたも1日看護学生になってみよう！ ～看護学校の授業体験・病院探険～」

教員 村松優子

平成28年7月25日、26日に公開講座を開催しました。今年度は、初めての試みで中学生・小学生対象の企画です。参加して下さった中学生・小学生は白衣に着替えて看護学校で「チーム医療とは」の講義を受けた後、千葉医療センターの薬剤部、理学療法室、病棟へ見学に行きました。参加者は説明される内容を熱心にメモを取りながら聞いていました。病院見学の後、看護学校の実習室で成人型シミュレーターやベビー型シミュレーターを使用した心音、呼吸音の聴診や妊婦体験、高齢者体験など、看護学校ならではの体験型授業を行いました。

一つ一つの体験に真剣に取り組んでいる参加者の姿がとても素敵でした。夏休み中の企画だったので自由研究のテーマにするという中学生もいました。

参加者からは「リハビリ室で音楽がながれている理由や、病棟にはいつもと同じようにくらすように、お風呂、トイレ、テレビなどがそろっていることにおどろきました。」「私は将来、看護師を目指しているので勉強になりました。」「今まで、本やTVでしか見たことのない体験ができてよかったです。」等の感想がありました。

この公開講座が中学生・小学生にとって看護・医療を身



近に感じる機会となり、これからの職業選択の一助となれば嬉しく思います。一人でも多くのこどもたちが医療・看護者になってくれることを望みます。

公開講座にご尽力頂きました皆様、ありがとうございました。

千葉県下看護学生体育大会

教員 高田 純子

平成28年7月1日に千葉県下看護学生体育大会が開催されました。この大会は参加する学生の交流をはかり、皆が楽しめるようにと実行委員が1年前から準備を進めてきました。

今年のテーマは「輪」です。参加校は当校を含め3校(旭中央病院附属看護専門学校、千葉中央看護専門学校)から学生と教職員、653名が参加しました。

今回は5競技と有志によるパフォーマンスが行われ、どの学校も優勝を目指す選手と応援をする学生の熱気につつまれ歓声のたえない時間となりました。



した。競技の結果は、当校はバスケットボールチーム、また昨年に引き続きバレーボールチームが優勝できました。

同じ看護の道を志す者同士がスポーツを通して協力し合い、また親睦の「輪」を広げることができた大会となりました。



第49回 椿森祭を終えて

教員 尾形 智美

秋晴れの季節、平成28年9月17日(土)に第49回椿森祭が行われました。

今年は「愛～手から伝わる看護の力～」というテーマで学生たちが趣向をこらした飾り付けや催し物を企画しました。テーマに込められた学生たちの思いは、看護という字は手で触れて目で見て護ると書き、看護師は五感を使って患者に接することが求められること、手と手が触れあうことによって思いやりとその愛情が伝わってほしいという趣旨でした。

椿森祭は、地域の方とつながりを持つことができる貴重な機会であり、様々な催し物を通して看護学生の愛を感じてもらいたいという気持ちをもって、限られた時間の中で計画的に準備をし、当日を迎えました。

椿森祭の一般公開に先立っては、椿森研究発表会が行われました。この発表会は学生が中心になり運営され、病院関係者にもご参加頂き、各学年から3名学生が選出され、実習での看護の成果を発表、ディスカッションし、共に看護について考える場です。

1年生は、初めての病院実習である基礎看護学実習Ⅰ-1の学び、2年生は初めての3週間の病院実習である基礎看護学実習Ⅱのケーススタディ、3年生は領域別実習でのケーススタディについて、看護理論家を用いて自己の看護を振り返る機会となっています。質疑応答、意見交換は活発で講評者の講評内容も適確で学びの多い時間となりました。



椿森祭の一般公開は、11時～15時までの時間で行われました。この間、130人を超える多数の来校者がいらっしゃいました。

縁日、手浴、白衣試着会、バザー、日頃の学習成果に基づいた身体測定や妊婦体験、高齢者体験など全学年協力して取り組みました。

また、学生によるダンスやコーラス、禁煙、災害についての発表が行われ、来場者の方々からは「楽しかった」、「学びになった」などの反応を頂くことができました。

学生たちは椿森祭の企画運営を通して、学年を超えて協力することの大切さや1つのことをやり遂げる達成感を持つことにつながり、社会性、創造性、表現力を育成する学習の場になりました。

この場を借りて、皆様へ日頃の感謝を申し上げますと共に今後とも学生自治会活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様へ健全な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、8月を除く毎月「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

7月・9月に行われたセミナー

7月28日(木)

「脳卒中の予防と治療」

講師：脳神経外科医長・
脳血管センター長 大石 博通

9月29日(木)

「早期から始まる緩和ケア
～緩和ケアって何?～」

講師：緩和ケア認定看護師
米持 奈津美・丹藤 千絵

今後の予定

第4木曜日 午後2時から4時
会場：当院地域医療研修センター

10月27日(木)

「摂食・嚥下障害ってご存知ですか?

—おいしく、楽しく、安全にお食事をとっていただくために—

講師：摂食・嚥下障害看護認定看護師 飯原 由貴子

11月24日(木)

「おなかの健康と食べ物のお話」

講師：栄養管理室長 宮本 佳世子

12月22日(木)

「前立腺がんの診断と治療について」

講師：泌尿器科医長 一色 真造

セミナーに10回参加された方には
記念品をさしあげます。

(お問い合わせ先 管理課)

専門外来担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
和漢診療科		永井千草 8:30～13:00 完全予約制	永井千草 8:30～13:00 完全予約		
腎内科(内科)			上田志朗 <第2・4水曜日>8:30～11:00		
不整脈外来(循環器内科)			上田希彦<第2・4水曜日> 14:00～16:30 完全予約制		
ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00～15:00	
緩和ケア外来(外科)		豊田康義 手渡(認定看護師) 13:30～15:30 完全予約制	豊田康義 手渡(認定看護師) 9:30～11:00 完全予約制		
ストーマ外来(外科)					谷(認定看護師) 外来診察時間内
禁煙外来(外科)			守正浩 13:00～ 完全予約制	守正浩 14:00～ 完全予約制	
肛門外来(外科)	守正浩 14:00～16:00 完全予約制				
助産師外来(産婦人科)	<完全予約制> 午後2枠	<完全予約制> 午後	<完全予約制> 午後2枠	<完全予約制> 午前・午後	<完全予約制> 午後2枠
性カウンセリング(総合診療室)				大川玲子 8:30～17:00 完全予約制	

検査担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)	金田 暁	田村 玲	斉藤正明	阿部朝美	伊藤健治
	里見 大介		里見/土岐	福富 聡	
大腸ファイバー(午後)	内科交替医	外科交替医	外科交替医	外科交替医	内科交替医
超音波	腹部	阿部朝美	田村 玲	伊藤健治	杉浦/金田
	心臓			山田善重 <第2・4木曜日> 午前	高見 徹

編集後記

今年オリンピックの年でした。ブラジル・リオデジャネイロで行われたこともあり、寝不足が続いた方も多いのではないのでしょうか?

日本は史上最多のメダルを獲得した2012年の38個を上回り、41個のメダル獲得と記録を更新しました。(金12個、銀8個、銅21個：合計獲得数国別順位6位と大健闘)

また、最後まであきらめないで接戦に持ち込み逆転勝利をした場面が多くあり、感動・元気を与えてくれたと思います。(K)

【編集委員名簿】

(編集長 杉浦 信之)
(副編集長 三井 光義)
(斎藤 幸雄)(木村 寿)
(新藤 学)(打矢 直記)
(坂野 和彦)(徳淵真由美)
(佐藤 厚子)

外来診療担当医師表 “聞く” “聴く” “訊く” の対応を! 平成28年10月1日より

診療科		月	火	水	木	金	
受付時間は原則として、平日(月曜日から金曜日)の8:30から11:00まで							
内科	新患	杉浦信之	杉浦信之	杉浦信之	森 泰子	斉藤正明	
	再診	呼吸器内科 <small>新患は紹介制</small>	斉藤正明	斉藤正明	[交替医]	田村 玲	岡澤哲也
		消化器内科 <small>(消化管、肝、胆、膵)</small>	丸岡美貴	西村大樹	江渡秀紀	丸岡美貴	江渡秀紀
			安田直史	栗山彩花	栗山彩花	西村大樹	安田直史
		総合内科	伊藤健治	金田 暁	伊藤健治	篠崎勇介	阿部朝美
糖尿病代謝内科 <small>新患は紹介制</small>	田村 玲	金子達哉	阿部朝美	西村光司	興 梶 慧 輔		
				金田 暁			
				後藤茂正 <small>(血液)</small>			
神経内科 <small>新患は紹介制・予約制</small>	島田典生	石塚伸子	島田典生	岡澤哲也	島田典生		
精神・神経科 <small>再診患者のみ</small>				由井健智	大原恵美		
循環器内科 <small>新患は紹介制・月曜日は完全予約制</small>	長瀬さつき	古本英晴	長瀬さつき	古本英晴	櫻井 透		
小児科	海宝美和子	宮腰 恵	海宝美和子	清原雅生			
		篠崎勇介					
外科・消化器外科	高見 徹	久保健一郎	宮澤一雄	高見 徹	中里 毅		
乳腺外科 <small>紹介制・完全予約制</small>	重田みどり	重田みどり	重田みどり	重田みどり	重田みどり		
			渡邊博子				
	森嶋友一	[交替医]	豊田康義 <small>(緩和ケア)</small>	小林 純	[交替医]		
	福富 聡		山本海介	里見大介			
	榊原 舞		利光靖子	土岐朋子			
	守 正浩		石毛孔明	佐々木巨亮			
整形外科 <small>火・金の受付は10時まで</small>	鈴木正人	鈴木正人	手術日	鈴木正人	鈴木正人		
	中野茂治	中野茂治		中野茂治	中野茂治		
	大河昭彦	[交替医]	大河昭彦	村上宏宇	[交替医]		
	阿部 功	手術日	阿部 功	白井周史	手術日		
	村上宏宇	受付は10時まで ※新患のみ	佐久間 詳浩	佐久間 詳浩	受付は10時まで ※新患のみ		
	白井周史		乗本将輝	乗本将輝			
股・膝関節外来 <small>完全予約制</small>			阿部 功 <small>(股関節)</small> 14時～15時30分	白井周史 <small>(膝関節)</small> 13時30分～15時			
形成外科 <small>木曜は完全予約制・金の受付は10時まで</small>	手術日	鈴木文子	手術日	[交替医]	鈴木文子		
		三木規子		<完全予約制>			
脳神経外科	丹野裕和	丹野裕和	丹野裕和	手術日	尾崎裕昭		
呼吸器外科	尾崎裕昭	川崎宏一郎	大石博通		川崎宏一郎		
	斎藤幸雄	手術日	斎藤幸雄	斎藤幸雄	手術日		
				芳野 充			
心臓血管外科		中谷 充	平野雅生		増田政久		
		<完全予約制>	鬼頭/増田		中谷 充		
皮膚科 <small>受付は10時まで 月・木は完全予約制 新患は診療制限あり</small>	浦崎智恵	浦崎智恵	[交替医]	角田寿之	浦崎智恵		
			浦崎智恵	<完全予約制>	[交替医]		
泌尿器科 <small>新患は紹介制 水曜休診 金曜の受付は10時まで</small>	佐藤直秀	櫻山由利	手術日	佐藤直秀	[交替医]		
	一色真造	一色真造		櫻山由利			
	川名庸子	宮坂杏子		川名庸子			
	宮内武弥						
産婦人科 <small>新患受付は月・水・金(紹介制)</small>	山縣麻衣	<完全予約制>	岡嶋祐子	<完全予約制>	岡嶋祐子		
	田淵彩里				林 若希		
	黒田香織 <small>(産)</small>	田淵彩里 <small>(産)</small>	山縣麻衣 <small>(産)</small>		田淵彩里 <small>(産)</small>		
眼科 <small>新患は紹介制 再診は予約制 受付は10時まで</small>	新井みゆき	新井みゆき	新井みゆき	手術日	豊北祥子		
	大岡恵美	大岡恵美	大岡恵美		大岡恵美		
	柿栖将人	柿栖将人	柿栖将人		柿栖将人		
	[交替医]	[交替医]	[交替医]				
頭頸部外科・耳鼻咽喉科 <small>新患は紹介制 再診は予約制 火・水の受付は10時まで</small>	渋谷真理子	渋谷真理子	[交替医]	手術日	鈴木 誉		
	坂本夏海	鈴木 誉	手術日		坂本夏海		
	蒔田勇治		※新患のみ		蒔田勇治		
放射線科 治療	酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>		
歯科口腔外科 <small>新患は紹介制 再診は予約制</small>	中津留 誠	中津留 誠	中津留 誠	嶋田 健	中津留 誠		
	嶋田 健	嶋田 健	嶋田 健	石田 翔	嶋田 健		
病理診断科	< 完全予約制 (月～金) >						

※専門外来・検査担当表は11ページに掲載しています。